

令和4年度 第1回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和4年8月9日(火) 午後1時30分 開会

2 開催場所 ハートフルかすが

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
東野正宗	委員	新屋敷昭一	委員[代理]
蘆田長門	委員	小松忠重	委員
谷和義	委員	田中康嗣	委員
畑敏幸	委員	石田光	委員
井上栄純	委員	石原純	委員
木寺章	委員	長田貴	委員
和田綱木	委員	清水徳幸	委員

委員16名出席

(オブザーバー)

奥藤秀樹(兵庫県交通政策課副課長)
大木玲子(丹波市商工会参事)

4 欠席者 足立安夫 委員、吉見和幸 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

- ① デマンドタクシーの状況分析について
- ② 路線バスの利用状況について
- ③ 令和3年度の実施事業及び決算について
- ④ 令和4年度の事業案及び予算案について
- ⑤ 鉄道に関する取り組みについて
- ⑥ 青垣地域（佐治～大名草間）路線バス延伸について
- ⑦ 市島地域統合小学校（竹田・前山）の通学支援について
- ⑧ 周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について
- ⑨ 丹波市地域公共交通計画の策定について
- ⑩ 福祉による移動施策について
- ⑪ その他

4) 閉 会

(事務局)

只今から令和4年度第1回丹波市地域公共交通活性化協議会（丹波市地域公共交通会議）を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

開会に先立ちまして資料の確認をさせていただきますと思います。

[事前配布・当日配布資料の確認]

なお、本日の会議録を作成させていただくため、録音をさせていただきますのでご了承くださいますようお願いいたします。

それでは令和4年度の第1回の丹波市地域公共交通会議の開催となります。2年任期のなかの2年目ということですが、各団体の中で委員の交代をされている団体もごございます。新たにお世話になる委員の方もごございます。今回の委員の方を改めてご紹介させていただきます。

[委員名簿により各委員を紹介]

(事務局)

本日議事の中でもごございます丹波市地域公共交通計画の策定につきまして、策定委託業者の方にもご出席をいただいております。ご紹介させていただきます。よろしくようお願いいたします。その他、事務局と市の担当部署の職員が多数出席しております。

以降の進行につきましては会長にお渡しいたしますのでよろしくお願いいたします。

(会長)

皆さんこんにちは。改めてご紹介させていただきます。4月から近畿大学にて、勤務しており、環境やまちづくりの促進するそういう学部の准教授になりました。引き続き、地域の活性化や交通の問題等の議論になります。よろしくお願いいたします。

それでは、今回、議題が沢山ございまして、デマンドタクシーの話や昨年度から話の中で出ておりました、地域交通計画の策定を今年度の一番大きな目標にしておりますので、まずはスタートアップというところから始めていきたいと思っております。

まずは、議事①デマンドタクシーの状況分析について、資料の別紙1から15に基づいて事務局から説明をよろしくお願ひします。

[①デマンドタクシーの状況分析について説明 資料：別紙1～15]

(会長)

ありがとうございます。コロナウイルスの影響等により、比較的、急落はしていませんが、やはり利用者が少し低調であると思っております。顕著に現れているのが27ページの別紙5に記載のある1人あたりの利用日数が前年度から200人以上の日数が減少していると思っております。

昨年、木曜日の運行を試験的に実施させていただきましたが、とても効果があったと

いうことではなく、むしろすごく費用がかかったという話が事務局からあったと思いますが、費用を要したとはいえ、医療機関に行くより、商店に行き買い物をする、逆転的な現象がとて多かったので、これは非常に喜ばしいことだと思います。減少傾向は変わっていないが、利用者を増やし、リピートする人も増やしながら少しずつ利用者を増やすことができれば良いと思います。資料の別紙1～15で何かお気づきのところありましたら伺いたしたいと思います。何かありますでしょうか。

運行いただいております、タクシー事業者さんの方から何かありますか。

(委員)

数字をご覧になられているとおり、やはり利用者数は伸び悩んでいるという点がこれからも1番の課題になると思います。なかなか、システムを変更することも難しく、新しい方法もデマンド三者会議の中で利用者の利便性向上を図れるような方向に持っていけるよう、バリエーションを増やすことが大事であると思います。

(会長)

バリエーションは大事ですね。色々思い浮かんだことを意見にすることは大事だと思います。デマンドタクシーについて質問等無ければ次に進みます。

次に路線バスの利用状況について別紙16・17についてよろしくをお願いします。

[②路線バスの利用状況について説明 資料：別紙16～別紙17]

(会長)

ありがとうございます。これだけ利用者が増加することは本当にすごいことですね。若い人に対して路線バスに乗っていただくため、様々な支援をするというのは若い世代に投資をすることと同じだと思います。やはり、このような支援をすることで、少しずつ、丹波に住み続ける人が増えたり、丹波の経済が活性化したりすることに結びついてくるのではないかと思います。これからも注視していきたいと思います。

これについて、運行いただいております路線バス事業者さんの方から、何かお気づきの点がありましたら、お聞きしたいと思います。

(委員)

データにてお示ししておりますとおり、弊社の方で調べますと、ここ2年程、ダイヤ改正以降、乗車いただいているお客様も増加しております。高校生の利用があることや、無駄の少ないダイヤの編成ができたことも1つの要因かなと思います。

(会長)

ありがとうございます。そのあたりのバリエーションや創意工夫で色々改善できる場所もありますので、よろしくお願ひしたいと思います。特に路線バスについては丹波医療センターが開院されたことで、かなり路線を再編し、丹波医療センターまでかなり楽に行けるようになったと思います。

これにつきまして何かお気づきのところありましたらお伺いしたいと思います。

(委員)

路線バスの乗降場所一覧とデマンドタクシーの乗降場所利用上位の一覧を見比べると、やはりデマンドタクシーの上位乗降場所も青垣・氷上・柏原域乗降者が多いです。バス路線が増えることによって、デマンドタクシーも基幹交通の枝葉を作り、活性化するのではないかと思います。丹波医療センターが開院されたことによって、往路はデマンドタクシーを利用し、復路は路線バスを利用するようなことが多く、特にゆめタウン等の商店に路線バスを使って行かれる方が多いです。短い距離ですが、路線バスを利用されることが多くなっているため、バス路線も増加し、これに付随してデマンドタクシーも同様に利用者が増加しているのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございました。この考え方は地域公共交通計画を策定していく中でとても大事であると思います。総合的な交通システムとして交通を考える。それぞれの役割分担というのを地域交通計画の中にしっかり明記していこうと思います。路線バスについて、よろしいでしょうか。

次は令和3年度の実施事業及び決算についてのご報告ということで事務局の方から説明をよろしくをお願いします

[③令和3年度の実施事業及び決算について 資料：別紙18～別紙20]

(会長)

監査委員さんから監査報告をお願いしたいと思います。

(委員)

監査報告を行います。令和3年度会計帳簿及び収支決算書につきまして通帳、帳簿ならびに、関係資料を確認いたしました結果、適正かつ正確な処理がされていたことを報告いたします。

(会長)

令和3年度実施事業及び決算について何かご質問等あればお願いします。今年度も引き続きデマンド車両の更新を行う必要があります。昨年度はコロナ対策として、乗車人数を1台あたり最大4人に制限して運行する等、様々な工夫をして運行いただきました。

(副会長)

実施事業の中で以前から整備されております地域境の乗り継ぎ拠点について、昨年度青垣・氷上間に1ヶ所、設置されました。設置からあまり経過しておりませんが、利用状況が分かっているならば、教えていただきたいと思います。

(事務局)

地域境での乗継所を青垣町東芦田地域と氷上町沼地域の間の場所に乗継所を整備し、青垣地域からデマンドタクシーを利用して氷上地域のデマンドタクシーまたは路線バス等へ結節するところで乗継を図っています。乗継所の整備自体が年度末であったこともあり、乗継所を利用されている方が増加していることをお示しできませんが、青垣地域から氷上地域へ行かれる方で乗継所を利用されている方は何人かいらっしゃるということはデマンド予約センターのオペレーターの方から聞いております。

(会長)

引き続き、特に青垣はバス路線が充実していますので、乗継ができることが大事です。また、そのデータをデマンドセンターもしっかりと追跡をお願いします。

では、この件についてご承認いただけますでしょうか。

(異議なし)

令和3年度の実施事業及び決算については承認されました。ありがとうございました。

【令和3年度の実施事業及び決算については承認された。】

次に令和4年度の事業及び予算案について事務局から説明をお願いします。

【④令和4年度の事業案及び予算案について説明 資料：別紙21～別紙23】

(会長)

令和4年度の予算について報告をいただきました。今年度の1番大きい事業は、丹波市地域公共交通計画を策定することです。今後5年間使用する大きな計画を作成するので費用を沢山、要します。デマンドタクシーにつきましては、地域境の乗継所を少し整備いくことと丹波医療センターへの移動手段の研究について引き続き、しっかり地に足を付けながらやっていきたいと思います。また、青垣地域の路線バスの延伸について、以前、書面協議で承認されましたので、これから注視していきたいと思います。また、山南地域・市島地域の小・中学校の統合について、今後、議論になると思います。

令和4年の事業案及び予算案について、何かご質問等ありますか。

(副会長)

市島地域の小学校統合に伴うバスについて、先日、新聞報道でもありましたように、路線バスではなくスクールバスでの運行という事で掲載されておりましたが、市としての考え方は基本的に路線バスではなく、スクールバスで運行することとするのか、どのように考えておられますか。

(事務局)

次第の7番で報告させていただき予定にしておりますが、路線バスを利用して通学できる地域については、まず路線バスの利用を考え、難しければ、次の手段としてスクールバスを考える方針で説明をしております。後程、報告させていただきたいと思っております。

(会長)

その他ご意見等ありませんか。令和4年度の予算案については承認でよろしいでしょうか。

(異議なし)

令和4年度の事業案及び予算案については承認されました。

【令和4年度の事業案及び予算案については承認された。】

[⑤鉄道に関する取り組みについて説明 資料なし]

(会長)

これまでの協議会ですが、道路交通を基本に路線バス・タクシー・デマンドタクシーの交通手段についての議論が多かったのですが、地域公共交通計画に鉄道についても掲載する必要がありますので、今年度は鉄道事業者の方に正式に委員としてご参加いただいております。今回は⑤鉄道に関する取り組みについて、まず鉄道事業者からご意見を頂戴したいと思います。今回ご参加いただきました鉄道事業者の方から現在の鉄道に関する取り組みについて、鉄道事業者さん及び丹波市からそれぞれ説明をいただければと思います。

(委員)

平素は大変お世話になっております。皆さん日々ご愛顧いただいておりますこと感謝申し上げます。鉄道というのは非常に厳しい状況におかれている実態にあります。やはり、この地域の中でしっかり安全性の向上あるいは質の高い輸送サービスの中で、持続可能な交通であることや交流関係地域の拡大について取り組みを進めていけるのではないかと考えております。しかし、特に重い問題がございます。1つ目は沿線人口が減少してきているという点で、これは全国的に少子高齢化が進んでおり、なかなか大きな改革は難しいということ。2つ目は、現行ダイヤを設定しておりますが、残念ながら輸送能力と利用状況が必ずしも一致しないという、このような状況にある中で一定の輸送力は維持させていただいていることが2つ目です。3つ目は、労働力不足ということがあり、鉄道は非常に設備のメンテナンスに労力を要するものであるため、このような労働力の確保が非常に厳しくなっているという事でもあります。さらに高速道路の延伸やマイカー利用、高速バスこのような利用によって競争が非常に厳しくなり、鉄道の優位性は残念ながら低下をしていると思っております。

さらには、コロナ禍で行動様式が非常に変わってきている事で残念ながらアフターコロナであっても、なかなか元のようなご利用実態にならないというふうに予想している状況です。私どもとしては、将来に渡って持続可能で安心安全な輸送といったことをしっかり取り組んでいきたいと考えていますし、観光誘客、そのような取り組みにも貢献をさせていただきたいと考えております。そういった中でご利用実態に促したダイヤのシフトまたは設備の維持に必要な中間時間帯での保守時間の確保、効率的な駅の運営、将来にまたぐ設備の維持管理等が課題であると思っております。観光誘客または、地域の皆さんとともに、様々な取り組みに連携し、進めていければと思っております。また1つ厳しい話がございます。4月には弊社からローカル線の利用状況について実際の数値を公表させていただいたことでもあります。兵庫県の中では1日の輸送密度が2,000人を下回る数値を公表していることです。現在、兵庫県のリーダーシップのもと、線区別に検討チームを作り、弊社からは神戸支社が参加をしており、加古川線についてのあり方について議論しているという状況です。今後そうした公共交通のあり方、あるべき姿について深まっていく事を期待しています。丹波市におかれましては、昨年3月に福知山線にICOCA対応改札を導入して以来、ICOCAの配布や、ICOCAポイント事業の実施により、非常に大きな協力を賜っていることを改めて感謝を伝えたいと思っております。こうした取組の一つ一つを少しでも利用促進に繋がれば、大変ありがたいと思っております。また職員の皆様も通勤の促進についても、協力をいただいているということも聞いております。そうした一つ一つの積み重ねによって、さらなるご利用の増加につながっていきますので、引き続きよろしく申し上げます。

(会長)

今後よろしく申し上げます。丹波市からも、よろしく申し上げます。

(委員)

先ほど鉄道事業者の方のお話と重なる部分がありますが、ご容赦いただきたいと思います。まず丹波市の鉄道の取り組みについて、丹波市を運行している鉄道は2線ございます。まず1つ目、JR福知山線につきましては、福知山線複線化促進期成同盟会において沿線自治体とともに、同線の複線化に向けた連携を行っております。令和3年3月から丹波市内の福知山線全駅にICOCAの決済サービスが使えるようになり、ICOCAを利用した乗車が可能となりました。続いて、令和2年度事業になりますが、丹波市としましてはキャッシュレス社会の入り口の1つとして全世帯に交通系ICカードのICOCAを配布させていただきました。また、令和3年度につきましては、先ほども話がありましたように、ICOCAを使って鉄道に乗車していただくため、ICOCA利用者へのポイント還元事業の実施をしています。資料にもありますが、自治体の事業としてポイント還元事業を行うことは、JR西日本管内で始めてということで注目をさせていただいたところですが、昨年7月から実施を開始した時に、新型コロナウイルス感染症の第5派に突入したため、なかなか利用者数も伸び悩んでいるところですが、やはり、行動制限がかかるとなかなか自治体の方でもPRが難しかったところですが、現在もその事業は引き続き実施しております。その他の事業としましては、鉄道で通勤される方のために駅周辺の駐車場の利用料金を助成する事業やたんば鉄道イベント実行委員会での利用啓発等に取り組ん

でおります。2つ目は、先ほど鉄道事業者さんからもお話がありましたようにJR加古川線の利用促進について課題がございます。丹波市としましても、同路線は生活上、貴重な交通手段の1つであることに合わせ、阪神淡路大震災の時には、迂回路として役割を果たしてきたという大きな実績もございます。兵庫県の南北を繋ぐ重要な災害支援ルートであるということも認識しています。今後は、同じ沿線自治体である西脇市さんまたは兵庫県さんと連携し、加古川線の維持、利用促進に繋がる取り組みを十分に進めて参りたいと考えております。

(会長)

ありがとうございます。特に、大きく変わったのがICOCAに関する利用促進であると思います。キャッシュレス化が一気に進んだことにより、それに伴い利用しようとする人も増えていると思います。またコロナ禍によって議論されている観光について、丹波市は観光資源が多くありますので、これを生かした計画が考えられると思います。鉄道に関する取り組みについて、何かご質問等ありますか。引き続き、地域公共交通計画の策定について、ご協力よろしく申し上げます。

それでは、続いて⑥青垣地域の路線バス延伸について説明をいただきたいと思えます。

【⑥青垣地域（佐治～大名草間）路線バス延伸について説明 資料：別紙24-1,2,3】

(会長)

ありがとうございます。これについては、以前に書面協議の資料をお送りしていただきましたとおり、約10年前に廃止となった路線バスを再度、新たにバス停を設置し、運行を行うこととございます。10月からの運行開始を予定としております。これについて何か質問等ありますでしょうか。

それでは、⑦市島地域統合小学校（竹田・前山）の通学支援について説明をいただきたいと思えます。

【⑦市島地域統合小学校（竹田・前山）の通学支援について説明 資料：別紙25-1,2】

(会長)

現状はスクールバスが有力であろうということですか。これについて、何かご質問等ありますでしょうか。

(副会長)

今後、小学校の統廃合はここだけに留まらず市島地域だけでもこの2校以外に、統合されることが想定され、今後のことも含めて考えていかなければ、地域によって通学手段が異なると難しい問題になります。小学校の統合について、しっかりと議論して市としての考えを持ち、臨んでいかなければならないと思えます。それと地元住民の方の意向というのは、しっかりと尊重しなければならないと思えます。

(会長)

市の考えが色々あると思いますので、事務局からご意見いただきたいと思います。

(委員)

まず、市としての考えになりますが、これから長い将来を見た時に、全地域に公共交通を整備していかなければならない、これは副会長がおっしゃっておられたことに変わりはありません。

その中でやはり利用していただく方々がいらっしゃらないと、なかなかお金を投入して走らせるというものではございませんので、乗っていただける方があるということは非常に大事であると思っております。今回、ご提案させていただいておりますのは、走らせることによって、必ず子どもたちに乗っていただけることが前提となりますので、その条件があるという意味では今回、ご提案させていただいている部分を市として、市島地域の将来を見た時、ご検討いただく部分であるということで提案をさせていただいております。現在、統合準備委員会の中で最終的な決定をされる部分ですが、市としましては一過性で終わらない、やはり継続的な路線の確保という意味で、今後も声掛けをさせていただき、その中で最終的なご判断をいただけると思っております。

(会長)

地域公共交通網の維持・活性化を行うという意味合いからすると、平行線として路線バスを走らせたい気持ちがあります。しかし、色々問題が起きるとスクールバスを望む声が多くなる。スクールバスは一般の利用者さんが利用することはできなくなります。地元との協議になると、子どもたちが行くところに不審者が来たらどうするのか、バスに座って学校まで行ってほしい等の安全面を危惧する声が出てくると思います。路線バス、スクールバスともに良い点、悪い点が想定され、非常に難しい問題になるため、安易に決めずにしっかり熟議したうえで実行していただきたい。ただ、こちらの立ち位置としては、地域公共交通の維持と活性化を進めていきますので、路線バスを推進すると思います。その他、何かご質問等ありませんか。

(委員)

議題⑦市島地域統合小学校（竹田・前山）の通学支援についてと議題⑧周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究についてですが、平行して話をしてはどうでしょうか。道路運送法第21条は特別なコンサートや災害が起きた時等の計画的かつ短期間あるものに対しては適用でき、実証実験を行うことができるが、本格的な運行となると道路運送法第21条が適用されないため、現在の想定では、一切本格的な運行はできないこととなります。そのため、以前は福知山市まで路線バス運行されていた路線を再度延伸していただくよう、市へ提案しました。資料の通学時刻を見ると、路線バスであれば前山からの通学で午前8時に竹田小学校に到着する路線を直接、市の中心部まで走らせることができると思います。もし、通学手段として路線バスを利用し、丹波医療センターまで路線バスを走らせることができれば、デマンドタクシーの利用者も増えると思います。総合的に考えると一つの目的のためにそれぞれ車両を使うのではなく、空いた時間に他の路線の応援に使えるような方法を考えると1つの車両で経費も安くなると思いま

す。豊岡市では、デイサービスに利用している車両を地域の高齢者の買い物や医療機関へ行くために使われている事例があります。このようなことも踏まえ、スクールバスを空いた時間に走らせるのが、理想であると思います。

(会長)

良いアイデアであると思います。事務局はどのように考えておられますか。

(事務局)

続いて議題⑧にて、経過報告とさせていただきます、その後に今のご質問について、整理させていただきますのでよろしいでしょうか。

(会長)

それでは、⑧周辺地域から医療センターへの移動手段の研究について、事務局から報告をお願いします。

【⑧周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について説明 資料：なし】

(事務局)

⑧の周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究について、ご意見がありましたとおり、これまでの現状だけ先に説明させていただきます。こちらの議題については、資料はございませんので口頭でご報告させていただきます。

周辺地域から丹波医療センターへの移動手段については、市民の方等から交通手段の充実を求める意見があり、当協議会においても昨年度から移動手段を研究するというところで、継続協議となっております。その移動手段のモデル地域として、丹波医療センターへの移動の条件が丹波市内で1番不便である市島地域からの移動について検討しております。その中で、社会実験を実施に向けた取り組みを行うため、各交通事業者と調整を行っていた中、先日、デマンドタクシーの三者会議が開催され、これまで事務局としては、ジャンボタクシーを活用した実施を検討しておりましたが、会議の中で路線バスを活用してはどうかという意見がありました。

(事務局)

先ほど、市島地域統合小学校の通学支援について説明させていただいた路線は、朝の1便と夕方1便のみで、昼間の時間は空いています。一方で丹波医療センターへの移動手段の研究につきまして、全く別に協議しておりましたが、タクシー協会さんから提案いただいたことは、時間帯を関連づけ、ダイヤを組むことも可能であるのではないかというご意見でした。

大前提ではありますが、学校統合により、登下校時に約50人の児童の方に乗っていただけるという需用があり、路線を新設することが可能である事が第一にございました。需用があること前提に路線を引く事に注力をして説明をさせていただきました。それとともに、市の中心部までの交通手段と通学支援を絡めて一緒に研究できないか、一緒に1つの路線を組めないのかを考えております。事務局としては、市の中心部に行くだけでは、需

要を確保することは難しいのではないかと想定する中で、一定の需要がなければ市も予算を出し、路線を組むところまで、中々踏み切れない部分もありますので、現在のところは小学校の統合による通学支援と周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究については、それぞれ別々に考えてきたというのが現状でございます。それが、先日のデマンド三者会議で関係者の方から、周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究をしてみてもどうかという意見があり、2つ関連させることも可能ですので、この場で意見交換をいただければと思っております。

(会長)

ありがとうございます。路線バスを使い、丹波医療センターへ行くことに対しての研究に少し焦点を当てれば良いのではないかとことです。うまくいけば、スクールバスとしての運行と併せてすることも喜ばれると思います。もし路線バスをスクールバスの代わりにするのであれば、ケースに応じて考えていかないといけないと感じます。個人的な意見になりますが、路線バスを使って丹波医療センターに行く案はとても良いのではないかと思います。デマンドタクシーは、しっかりと各地域内を運行いただきたいという思いがありました。

スクールバスについて、お話をさせていただきますと西播磨の佐用町では、スクールバスを持っておられ、通学支援だけでなく、校外学習をする時等、教育のために使うようなものであれば、やはりスクールバスの方が良いのではないかとこの考え方もあります。ただ、通学の支援だけで、スクールバスにするのはどうなのか、という意見が出ることもあります。外国では、スクールバスがしっかり通学を保障するということが大前提にありますので、スクールバスは大きな乗り物として定義されておりますが、日本の場合はそのような定義がないのが現状です。交通ルールに関しても、アメリカではスクールバスを追い越してはいけないというルールがあり、大事な乗り物にされているという実情を念頭に置き、考えていくことは大事になると思います。路線バスが良いということでもなく、通学のためだけにスクールバスを購入することは、合理的でないと思えますし、このような意見もあると思えます。委員の皆様から何かご意見等はありませんか。

(委員)

スクールバスを住民輸送に活用という意見がありましたが、今の地域公共交通活性化再生法の改正に伴い、地域の輸送支援、送迎の動きがある中で以前、福崎町で大学のスクールバスを活用した支援が導入されましたが、大学の都合で輸送ができなくなった事例があります。姫路の夢前でスクールバスの活用をされていることも聞いておりますので、スクールバスの活用を実施されている自治体も最近、増えてきています。

(委員)

鴨庄地区は、来年度から小学校が統合され、スクールバスの運行が始まります。それに向け、コースを設定し、ほとんど決まっております。鴨庄は自主運行バス「鴨庄ふれあいバス」を持っており、スクールバスも走ることになるが、路線バスがない地域です。鴨庄はスクールバスを運行することが決定しておりますが、地域と他地域の人とのふれあいができると考えられますが、「動く教室」という考え方があり、スクールバスはスクールバ

すで考えた方が良くと思います。しかし、前山・竹田小学校の統合については、鴨庄に比べると少し距離が異なるため、住民の方の意見もあり、新聞報道等では、スクールバスに決定と報道されておりましたが、丹波市として、検討の余地はありますか。

(事務局)

我々としては今でも路線バスを活用いただきたいという思いがあり、お話があれば随時受けさせていただきたいと思っております。新聞報道でのスクールバスで決定という事ですが、小学校の統合準備委員会は、全体の準備委員会の下に地域部会があり、今回は地域部会での決定事項であると思っております。今後、全体の統合準備委員会の中で最終的な決定をされるものであるため、それは尊重していきますので、現状は難しいとしか言いようがないところではあります。

(委員)

やはり、最終的には保護者の方や地域の方の意見で決まると思っております。質問ですが、資料の中で鴨庄地域等は、山村振興法に該当するという記載がありますが、どういう意味ですか。

(事務局)

山村振興法に該当する地域として、丹波市内では神楽地域・遠阪地域・葛野地域・鴨庄地域の4つの地域が該当しています。過疎法と青垣地域の場合は重複している部分がありますが、今回バス路線の延伸になるので対象地域として認められました。

(委員)

8時出発の丹波竹田駅か八日市のバス停を出発点とし、市島住民センターを経由し、以前は走っていましたが、鴨庄地域から春日町の春日部地域を通り、春日町多田へ行くような路線を復活していただきたい。デマンドタクシーは、9人までしか乗ることができないため、地域内の運行が難しくなります。路線バスを使用すると何ヵ所かの地域を経由し、丹波医療センターまで行くことができます。バリエーションが増え、鉄道利用者や路線バス利用者等、様々な方の選択肢を利用者に持っていただくことが良いのではないかと思います。やはり、路線バスが走っている方が見た目も華があり、より利用者が増えるのではないかと思います。今の状態では、利用方法がなく、行き詰っている状態になっています。様々な考えを持つことによって、コストも安くなるのではないかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。これまでは、次第⑦市島地域統合小学校（竹田・前山）の通学支援についてと⑧周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究については、切り離して考えておりました。その中で、⑧周辺地域から丹波医療センターへの移動手段の研究については、これまで、タクシー会社さんで管理されております、ジャンボタクシーを利用することを前提とした社会実験について関係者の方と協議をさせていただきましたが、もし、ご同意をいただけるのであれば、もう一つ的手段として路線バスによる社会実験及び⑦市島地域統合小学校（竹田・前山）の通学支援について、全体として事務局を中心に

研究をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(会長)

移動手段の研究ですので、様々な仮説を立て、それについて検証していくこととなりますので、実験的になにかを運行することは皆さん反対ではないと思います。

事務局である程度シミュレーションを立て、仮説の下でやっていきます。手段については、事務局からの提案にありましたように、路線バスを活用した社会実験は比較的やりやすいため、実験してみてもどうかと思います。こちらの計画で進めてよろしいでしょうか。

(委員)

スクールバスと丹波医療センターへの移動との隙間があるのではないか思い、一緒にできれば無駄を省き運行することができるため、費用が沢山かからない、今あるものでなんとかできないかと提案させていただきました。

(委員)

先ほども話の中で、スクールバスの案も出てきており、保護者の方は、子どもの安心を危惧されると思いますが、弊社は安心・安全の運行を行っており、路線バスであってもきちんと運行しますので、ご考慮いただきたいと思います。

(会長)

スクールバスは、学校統合までに時間がありますので、スクールバスの代わりに路線バスが走ることを前提に路線バスを走らせ、丹波医療センターまで行くことを実験で検証していくと計画で進めてよろしいでしょうか。

(事務局)

お話いただいたとおり、路線バスを活用し、社会実験ができないか案を作成させていただきます。その実験についての予算は市で準備し、社会実験をさせていただくのですが、その案を次回の活性化協議会の中で提起させていただくか、ご意見を参考に事業者の方々と調整し、市の施策として社会実験をさせていただいて良いのか、確認をいただきたいと思います。

(会長)

性急に行っても、昨年の木曜日の社会実験と同じ展開になることが想定されますので、しっかりと調整をしたうえで行う必要がありますので、次回の会議でしっかりすり合わせをしたいと思います。

(事務局)

他にご意見がなければ、次回の協議会で実行可能な案を市として提出させていただきますので、ご了承いただいた後に社会実験を行いたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

(会長)

次回の会議の際に決定で、お願いします。

(委員)

通学支援については、基本的に教育委員会、地域部会、統合準備委員会で決定され、今回、ふるさと創造部から提案させていただきたいことは、通学というのは徒歩か自転車、バス等、様々な手段がある中、公共交通の安全性、将来性を考え提案させていただきました。現在の地域部会ではスクールバスの方向になっておりますが、この会議でいただいたご意見を事務局を通じて教育委員会にも伝え、将来に悔いのない決断をしていただくよう、提案をさせていただきたいと思います。

(委員)

スクールバスの関係で他の市町でも、同じように悩まれているところが沢山あると思います。公共交通の立場の者からすると、提案されたように一定の需要を認めるものや一般の方も乗れる可能性があれば、路線を引き運行をする。一定需用が見込まれるところであれば路線バスを推していくことは当然であると思います。実際、加東市が中学校統合の際に丹波市と同様に保護者からスクールバスという意見もありましたが、路線バスとの混乗の方向を取られたため、どのような議論が行われたのか、参考になると思います。スクールバスの空き時間が発生し、この時間を有効活用できないかの話ですが、実際スクールバスに決定した際、本当に空き時間があるのか、教育委員会と協議し確認しながら取り組まれた方が良いと思います。

(事務局)

スクールバスの空き時間については、他の方法で活用する事は余り考えておりません。スクールバスは委託事業で車を借り上げ、運行いただくことになり、校外授業や校外活動に使用されるための待機時間になるため、他の路線を走るとは難しいと認識しております。事務局で空き時間として捉えておりますのは、路線バスをスクールバスの代わりに使用した場合、路線の終点まで行った後の空き時間のことを考えていたということでご理解をいただきたいと思います。

(会長)

次に、⑨丹波市地域公共交通計画の策定についてですが、今回の議題では一番重要な話となりますので、事務局から説明をお願いします。

[⑨丹波市地域公共交通計画の策定について説明]
(資料：別添交通計画資料)

(会長)

ありがとうございました。地域公共交通計画は、地方公共団体で策定していくことになっ

ており、県の自治体計画の中でもそれぞれの全市町で作成いただきたいとのことです。他市でも地域公共交通計画を策定している中で丹波市も作成することで将来像を見越し、交通計画をやっていくことを前提に資料末尾の基本的な考え方に基づき、策定の取りまとめをしていきたいと思います。策定にあたり、今回では目次における第2章これまでの丹波市の交通のレビューを設けているところを説明していただきました。ここから第3章の他の計画との整合性や第4章の前章までの課題を踏まえた事業の取り組みのような構成となる見通しを立てていただいております、今回は第2章までの報告となります。

今回はこの資料を見ていただいて、このような形で進めて良いか、追加で記載する事項があれば意見として聞いておきたいということで、議論を行いたいと思います。

また、今回の議題としてお聞きしたいのがアンケートの項目、特に今回利用者に対するアンケートについて、鉄道を利用している方、デマンド交通を利用している方などを対象とし、生の声をこのような形で使っていき、意見を踏まえて計画に落とし込んでいくということを狙っていくようです。

特にアンケートの部分が重要になってくると思いますので、この内容はどうかという点、こういうところを聞くほうが良いのではないかという点も含めてご意見ありましたら合わせていただきたいと思います。

これについて、何かご意見等ありましたら、お伺いします。

(委員)

利用者に対し、現状の利用について尋ねるアンケート調査を現在、公共交通を利用されていない方に「なぜ利用されていないのか」という質問をすることで将来公共交通の利用を促進するといった視点での調査ではないということによろしいでしょうか。

(事務局)

ご指摘いただいたようなデータも当然必要であると考えておりますが、今回のアンケート調査は、以前実施しました「丹波市まちづくりビジョン」の策定において公共交通に関する詳しいアンケート調査を行っており、こちらのデータで一定のベースとなる情報は得ているものと考えております。本日の資料では一部抜粋という形で記載しておりますが、実際には膨大なデータを収集しております。

また、公共交通に特化したアンケート調査を実施した場合、希望的な回答に偏ってしまう傾向がある点もございます。その中で、「丹波市まちづくりビジョン」のアンケート結果がある前提で、利用者にとったアンケート調査を実施してはどうかという考え方で今回のアンケート調査票を作成しております。

なお、この場において、さらに新たなアンケート調査が必要であれば、丹波市のシステムを使用した費用を抑えた方法でのアンケート調査も実施可能ですので、本日の協議結果を踏まえ、検討させていただきたいと考えております。

(会長)

アンケート調査結果は、資料の40ページにアンケート調査結果とありますが、資料全体に散りばめ、掲載する形になると思います。

また、公共交通を使っていない人は、なぜ使っていないのかという分析を公共交通の活性化

のために活用するという観点も必要であると思いますので、その内容はどの部分で反映するのかという点についてはどうでしょうか。

(事務局)

現況資料の 38 ページ、39 ページにおいて「丹波市まちづくりビジョン」でのアンケート調査結果から 2 項目を抜き出した形となっております。公共交通に関する設問は多岐にわたっており、交通に関するデータも沢山収集しております。一方、資料に記載の内容では、全体が見えないということもあります。計画冊子に記載できる内容には限界がありますので、「丹波市まちづくりビジョン」でのアンケート調査結果についてお示しできるものを委員の皆様へ別途配布させていただきたいと思っております。

(会長)

「丹波市まちづくりビジョン」のアンケート調査結果については、参考資料の形でお示しいただけるとのことで、よろしくお願ひいたします。

(副会長)

先程の質問で説明いただいた「丹波市まちづくりビジョン」のアンケート調査結果を参考にするということですが、「丹波市まちづくりビジョン」の策定が令和元年ということで調査時期がかなり前のアンケート調査になりますので、データとして適当なのかという点と、費用面で厳しいということであれば市役所公式 LINE などを活用したアンケート調査を行う等、出来るだけ最新のデータを収集した方が良いと思っております。

(事務局)

ご指摘いただいたよう「丹波市まちづくりビジョン」は、令和元年 11 月策定となっております、その他過去のアンケート調査として、「公共交通システムのあり方に関する検証」で令和 2 年度実施しております。

(事務局)

これまでの議論の中では、公共交通利用者アンケートを検討しておりましたが、WEB アンケート調査は、市のシステム上実施可能ですので、WEB のアンケート調査をするべきということでしたら、この場でお決めいただきまして取り組んで参りたいと思っております。

(会長)

最新のデータを得るためのアンケート調査は可能であれば、実施すべきと思いますが、事務的な制約等もございますので、急に決めてしまうより検討していくという方向でいいと思います。

(事務局)

残念ながら WEB アンケート調査実施について、もう一度協議会で検討する時間的猶予がありませんので、内容について事務局にお任せいただけるのであれば実施可能であるかと思っております。

また、自由記述のような質問については集約が難しいですが、選択式の設問であれば自動で集計するシステムもございますので、対応可能であると考えております。

(会長)

私と事務局で検討して WEB アンケート調査票を作成し、これまでに実施してきたアンケート結果の最新版を作るということでよろしければ、連携して実施していこうかと思いません。

そもそも、何故、利用者アンケート調査のみにしたかと言うと、アンケート調査で「公共交通を利用します」と回答しても実際には利用しないことが多く、回答にバイアスがかかることが多くなっています。集計結果がひずみやすいので、対象を削ぎ落としてピュアな視点でアンケート調査を行うことが第一義となります。

一方で、公共交通を利用しない方々の声も大切ですので、データが古いのではないかとというご指摘と合わせ、最新のデータも並行して確保するという形式で行きたいと思えます。

(会長)

資料を見ると交通の現況と課題ということで 17 項目もありますので、丹波市としても色々取り組んでいると思えますし、今まで協議会で扱ってこなかった内容として鉄道や高速バス、その他の輸送資源などにも触れ、移動支援策の実施状況なども取りまとめておりますので、かなり総合的に取り組んでいく形になっております。それらを網羅的に施策としてやっていこうという方向性になりますので、国からの行政支援も見据え、今後の第 3 章以降も期待していきたいと考えております。

その他のご意見は如何ですか。

(委員)

アンケート調査について、先程の質問にもありましたが、アンケート項目の間 3 のような自由記述になっている回答項目については、自由記述だと回答しない人が多くなることも考えられ、集計のしやすさも考えて選択肢をいくつか用意してもいいのかなと思えます。

また、配布先は各 50 件という話でしたが、丹波市内の 6 地域に偏りなく配布されるのでしょうか。

(会長)

アンケート調査の配布方法について回答をお願いします。

(事務局)

配布先は、市の助成制度の申請をいただいた方を対象としておりますので、地域や性別による偏りは出てしまうものと思えます。

(会長)

50 名という配布人数は何か制約があるのでしょうか、理由があるのでしょうか。

(事務局)

デマンドタクシーについては登録者がたくさんいらっしゃいますので、配布範囲を広げることができるのですが、鉄道の助成制度については昨年度 50 名弱であったり、路線バスの助成制度についても 50 名未満であったりと件数が非常に少ない状況であるため、50 名を最大とした配布予定としております。

(会長)

バスの利用者の実態を把握することは難しい側面もあるので仕方がないという部分もありますが、バス事業者とも検討し、配布件数を増やせるよう調整できれば良いと思います。

アンケート調査のモニターに対する比較的な集計の検討については、別途事務局と連携し、進めていきたいと思います。それを通して第 3 章の方針が決まると考えております。

地域公共交通計画については、このような形で進めていく方針でよろしいでしょうか。

(会長)

それでは、福祉の移動施策について、事務局から説明をお願いします。

[⑩福祉による移動施策について 説明]

1) 令和 5 年度以降高齢者外出支援事業の見直しについて 資料：別紙 26

(会長)

高齢者外出支援事業の見直しについて、案 1 か案 2 のどちらかを選択していただきたいという提案になります。高齢者に対する施策として、フレイル予防を実施することは凄く大切なことだと思います。個人的には、選択肢が多い方が良いと思います。何かご意見等ございますか。

(委員)

会長が先ほど言われておりました選択肢があるということは、私もその方が良いと思います。介護予防事業で様々な健康教室等の事業が展開されております。1 つは外出支援事業を行われていることですが、介護予防でのフレイル予防に関する啓発や市民の方に浸透させるために、どのような方法を講じ、市民の方や対象者の方の理解を得ようと考えておられるのか、理解をしてもらうための周知の方法等、様々な思いを持っておられると思いますので、お聞かせいただければと思います。

(事務局)

より多くの人に知っていただく事が大事だと思います。現在もタクシー券等の配布については、地域の民生委員の方に大変ご足労をいただき、ご協力いただいております。地域には、いきいき百歳体操やサロン等、元気な高齢者の方がお集りされるところがあります。丹波市のホームページ以外にも民生委員を通じてや地域の集いの場において、周知ができればと考えております。

(委員)

現実的に「フレイルって何？」と思われる方がおられると思います。例えば、このような話をどのように説明し、理解を得られるのかを教えてください。

(事務局)

フレイル予防という言葉を繰り返し使い、説明させていただきましたが、できるだけわかりやすい介護予防等の言葉を使いながら集まれる場所で説明をさせていただきたいと思います。神姫グリーンバスの方やゆめタウンさんと共同で、市内全体の人を呼び込むような「フレイル予防教室」等でもフレイル予防の説明をさせていただきたいと思います。

(委員)

丹波市内にある地域包括支援センターやケアマネジャーを通してフレイル予防、介護予防をわかりやすく市民に浸透させていくことが必要になると思います。

(事務局)

市内には地域を担当する地域包括支援センターが3か所あります。高齢者外出支援事業の対象者が要介護1以下の比較的歩行が安定した方となりますので、このような方は地域包括支援センターの職員と関わるのが非常に多いため、その方のお話からの周知もあると思います。また、介護予防に特化した出前講座等も実施しております。近年は、新型コロナウイルスの影響により申し込みが少ないという事もありますが、地域に出向き、説明を続けていく中で事業の普及も続けていきたいと思っています。

(委員)

そのあたりを押さえ、どちらが良いのか、もう少し議論をしながら続けていく必要があると思います。

(事務局)

事業者の方に、質問をさせていただきたいのですが、どちらの案になっても、共通券というパターンになります。大変小さい形の物を配布します。案2の方になると、3枚までという上限があります。使用手順についての説明のご協力はいただけますか。

(委員)

利用者に共通券を提供される際に説明をされると思います。それに伴い、使用方法を書いた配布物もあると思います。配布物等を提示することはできると思います。

(会長)

実際にバス券で路線バスを利用される方もあると思います。路線バスを運行する中でバス券でのトラブルはありましたか。

(委員)

現時点ではトラブル等はないので対応できます。

(会長)

事前に共通券を配布することを事業者へお伝えし、わかりやすい書類等の配布物があれば車内掲示いただくよう依頼をすることとします。全体的な話としては路線バス、デマンドタクシー等の選択肢が増えることは良いことだと思います。現在、コロナフレイルと言われる程、コロナで外出が減っておりますので、外出を促進する必要があります。外出が増え、フレイル予防の効果に繋がった場合は3,000円ではなく、金額を上げることも是非検討いただければと思います。今回の話では、案1より案2が良いと思いますので、案2で進めていただきたいと思います。

続いて、福祉送迎サービス事業の検証と実績について、報告、検証結果、令和4年度の事業実績について説明いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

[⑩福祉による移動施策について 説明]

2) 福祉送迎サービス事業の検証

(会長)

ありがとうございます。かなり検証の結果が出てきたと思います。キャンセルが多いのではないかと懸念しておりましたが非常に少ないです。月別においても、平均的にバランスの取れた利用状況になっています。何かご質問等ありますか。

続いて、福祉送迎サービス登録者に対するアンケートについて、説明をお願いいたします。

【福祉送迎サービスアンケート説明】

(会長)

ありがとうございました。これから発展的に事業を実施していくため、アンケートの実施、福祉交通部会を設置し協議を行いたいという提案です。福祉交通部会の設置要綱もありますので、設置の方向で進めさせていただいてよろしいですか。

意見もありませんので、福祉交通部会を設置します。事務局からの提案について審議したいのですが、一つ改正案があります。軽微な部分は所管部署の変更、委員の任期についても地域公共交通会議と同様にする。大きく変わるのが、利用者の代表に参加いただき、利用者側から意見をいただきたいと考えております。つきましては、利用者の代表をこちらから指名し、参加いただくことでよろしいですか。

設置要綱の改正についてもよろしいですか。

(異議なし)

【福祉交通部会の設置、設置要綱の改正について承認された】

それでは、改正後の設置要綱に基づき、福祉交通部会を開催したいと思います。

[会長より福祉交通部会の委員の発表]

(会長)

それでは、次回の会議開催について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

次回の会議開催日についてですが、例年 11 月頃に第 2 回目の会議を開催しておりますので、会長とご相談のうえになりますが、11 月頃の開催でいかがでしょうか。

(会長)

それでは、その間事務局と調整をさせていただきたいと思います。

最後に、副会長から閉会のごあいさつをお願いします。

(副会長)

本日は長時間、慎重に議論いただきありがとうございました。JR 西日本から発表がありました赤字路線の収支について、丹波市を走っている加古川線が該当しているという話になっております。安心であろうと思っていた路線ですら、厳しい状態になっていく社会情勢に変わってきています。その中で、利用者、市民の方が乗って残そうという気持ちが無ければ、廃線という状況にもなりえます。私も加古川線ワーキングチームの委員として西脇市と一緒に協議をしておりますので、良い意見等ありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

本日は長時間にわたり、お世話になりありがとうございました。